土木学会中部支部40年の歴史について

土木学会中部支部幹事長　正会員　○植　下　　協（名古屋大学工学部）
土木学会中部支部　幹事　正会員　　今　泉　繁　良（名古屋大学工学部）

1．まえがき

土木学会中部支部は，昭和13年5月29日に発会式と第1回の総会を開催したことにより，昭和53年には満40年を迎える。中部支部では，これを記念して，4月7日に40周年記念総会と土木学会中部支部四十年誌－中部地域における昭和土木史－の発行を企画している。筆者らは，昭和52年度の中部支部幹事長ならびに幹事として，学会事務を担当するとともに，四十年誌の編集作業を進めてきた。ここに中部支部40年史の概要を紹介し，支部40年の歴史を築いてこられた先輩諸氏の労をたたえたい。

2．土木学会創立から中部支部設立まで（大正3年11月～昭和13年5月）

土木学会は，大正3年（1914年）9月15日に東京において発起人総会を開き，初代会長に古市公威氏を選出し，同年11月24日付をもって文部大臣から社団法人土木学会設立の許可を受け，12月9日東京区裁判所において法人設立登記をすませ発足した学会である。この土木学会の創立から中部支部設立までの24年間の学会活動は，東京を中心として進められており，この間，中部地区に在住する会員は，学会誌への投稿，見学会・講演会への参加などにより，学会の発展に貢献した。ことに，中部支部設立以前にも学会の視察旅行が，清水港改修工事（大正14年5月16～17日），関西線木曽川橋梁工事等（昭和2年4月28～30日），庄川堰堤工事等（昭和3年5月12～15日），清水港震害状況等（昭和6年3月21～22日），名古屋駅改良工事等（昭和10年10月27～28日），宇佐美隧道工事等（昭和11年5月10日）を対象として6回にわたり中部地区内で開催され，担当の官庁・事業所はその準備・接待に大いに協力した。

土木学会の支部としては，昭和2年10月に関西支部，昭和12年6月に東北支部，昭和12年10月に北海道支部が設立され，中部支部は4番目の支部として誕生することとなる。

3．中部支部の設立

昭和12年4月17日の常議員会（現在の本部評議員会に相当する）では，学会事業の発展と会員の増加により，全国各地に支部を設置することの緊急性が確認された。次いで同年5月3日の理事会では，「九州，東海，北海道地方を区域とし，会員の増加ならびに支部設立に関し，その地方の学校・内務・道県・鉄道関係の主なる会員に対し，配慮方を依頼する」ことが決定された。これを受けて，名古屋市在住の10名の会員が設立発起人（総代は名古屋高等工業学校北澤忠男教授）となり，東海・北陸の8県（愛知・静岡・三重・岐阜・福井・石川・富山・長野）に在住する会員と連絡をとり，支部規定と内規を立案し，土木学会に設立承認を求めるなど支部実現の努力をした。その結果，昭和13年5月13日に開かれた理事会において中部支部の設立が承認されるに至った。

土木学会中部支部の発会式と第1回総会は，昭和13年5月29日午前10時15分より，来賓に辰馬会長をはじめ22名を招待し，一般会員220名が出席し，名古屋市御幸本町の愛知県商工館において開催された。発会式では，北澤忠男氏が経過報告を行い，中部支部規定と内規が承認された。次いで，支部

長選挙が行われ，初代支部長に矢作水力（株）副社長の杉山栄氏が選出された。第１回の総会では，評議員（現在の商議員）18名と幹事長3（名高工，北澤忠男教授）ならびに幹事４名が選出された。

4. 支部設立から終戦までの支部活動

支部が設置された昭和13年度には，定期総会の他に，役員会４回と座談会２回（愛知部会，岐阜部会）を開催した。10月31日開催の第３回役員会では，名古屋帝国大学に土木工学科を設置する件が議題の１つになっている。支部のこの要望は，支部設立総会のあとの晩餐会においても，北澤幹事長から緊急動議として提出され，満場の拍手で賛成されているものである。（中部支部40年史を，今日，名大土木工学科において作成し，北澤幹事長の功績をたたえているめぐりあわせは興味深い。）

なお，中部支部設置に尽力され，初代支部長となられた杉山栄氏は，任期５か月たらずの10月７日に逝去され，10月23日の総会において，北澤忠男幹事長が第２代支部長に選ばれている。いる。

昭和15，16年度は，戦前において支部活動が最も充実していた時期であった。年１回の総会と年４回の役員会を支部活動の軸として，各県部会，講演会，視察見学会，座談会などが開催された。中でも，各県部会の開催は，今日のように交通の便が発達していなかった当時において，各地域に在住する会員に平等な学会サービスを施そうとする企画であった。このような支部活動の高揚のもとに，昭和16年４月５日開催の第４回支部長会議においては，『昭和18年度第５回年次学術講演会は，中部支部管内において開催する』ことが決定されるに至った。

このように開花した支部活動も，第二次世界大戦が激しさを増すとともに，徐々に後退せざるを得なかった。昭和17年度は，支部総会が開催できなかったが，それでも，年４回の役員会，講演および映画会，視察見学旅行が行われた。しかし，翌18年度には，講演会・見学会のような一般参加の行事はなくなり，昭和19年２月９日の役員会を最後として，終戦前における支部活動の記録は絶えている。

なお，昭和18年７月22日開催の第７回理事会において，『名古屋市において開催準備中の第５回年次学術講演会は，中部支部よりの申出により開催を中止し，すでに提出されている論文は，年次学術誌上講演として取扱う』ということが申し合わされ，このことが同年７月26日開催の常議員会において承認された。かくして，昭和18年に名古屋市で開催予定であった第５回年次学術講演会も，時局の悪化により，終戦後の昭和24年に実現するまで，その他のすべての学会活動とともに，非常事態の中で姿を消すこととなった。

5. 昭和20年代の支部活動

記録によれば，戦後の支部活動の第１歩は，昭和23年６月４～５日に開催された名古屋港見学会と講演会であった。同時に，この年度は，終戦前に中止した第５回年次学術講演会を中部支部管内で開催することが決定され，その準備に奔走した年でもあった。

昭和24年５月21～22の両日，名古屋工業大学において中部支部主催で行われた第５回年次学術講演会は，久しく中断していたものの復活として，中部支部のみならず，土木学会全体にとっても画期的な意義があった。大会は21日午後１時から，名古屋医科大学において開会式を行い，続いて会場を名古屋工業大学の５教室に移して，講演者107名，参加者500名による講演会が22日正午まで行われた。午後からは，名古屋港，犬山城，岐阜忠節橋の３班に分れて見学会が行われた。

昭和24年の年次学術講演会の開催を契機として，支部活動は復活・高揚していった。昭和25年には，

支部大会1回，講演会5回，映画会1回，見学会3回を開催するに至った。一般会員の支部活動への関心も高く，参加者数も講演会に300名，見学会に50名以上と盛況であった。

昭和26年度からは，支部活動形態の定着化がみられる。年1回の支部大会，毎月開催される幹事会，年3，4回の役員会を運営の軸として，見学会，映画会，講演会などの行事が実施された。また，昭和26年12月6日に第1回中部支部研究発表会が名古屋工業大学において開催され，さらに昭和29年3月26～27日には第1回講習会が名交会館で開催され，その後，これら2つの行事は年中行事として企画されるようになり，現在の支部活動の基礎を築いた。

組織面に関しては，支部設立以来中部支部に属していた福井県が，昭和26年頃より，諸事情を考慮し，関西支部に転入することを希望した。そこで，中部・関西両支部で検討した結果，中部支部においては，昭和27年3月18日の役員会で，その所属変更を認めることとなり，本部においても，同年5月23日の定例常議員会で規則の改正が承認され，福井県は正式に関西支部に編入されることとなった。

6. 昭和30年代の支部活動

昭和30年代の支部活動は，20年代後半に定着した講演会（年数回），講習会（年1回），一般見学会（年数回），学生見学会（年数回），研究発表会（年1回），支部大会（年1回）等の行事の開催と幹事会（月1回），役員会（年3,4回）が開催され，その内容が豊かにされていった。

このような中で，昭和34年9月26日に中部地域を襲い，甚大な被害をもたらした「伊勢湾台風」は支部活動にも大きな影響を及ぼした。この状況は，次のような支部大会延期の案内によって知ることができる。「中部支部大会予定地の四日市より桑名，海部郡，名古屋南部にかけて海岸堤防，河川堤防が寸断され一面泥海と化している現状で，土木関係従事者はこの未曽有の大災害の復旧に日夜忙殺されておりますので，復旧工事が軌道にのり一応見とおしが立つまで大会開催を延期させていただきます。」このようなわけで，昭和34年度の9月以降は，昭和35年1月29日の研究発表講演会と3月12日の支部年次大会を開催したにすぎない。

昭和35年度には，支部活動も正常にもどり，昭和36年には土木学会第47回通常総会と第16回年次学術講演会を名古屋市で開催した。5月27日午前9時より，名古屋工業大学講堂に115名の会員が出席して総会が行われ，午後1時からは，5部門9会場で学術講演会が行われた。27，28日の2日間にわたる講演会には，274編の講演と1500名以上の参加者があった。

昭和38年度は，戦後の支部活動における2回目の転換期であった。行事面では，12月16日に第1回目の技術講座が名古屋大学で開催された。また，支部設立以来秋期に開催されていた支部総会（大会）が，6月に開催され，39年度以降は，4月に開催されることになった。組織面では，10月22日開催の第2回役員会ならびに第7回幹事会において，中部支部規定が検討され，従来，明文化しないでお願いしていた顧問の制度も，中部支部規定に明記されることとなった。

7. 昭和40年から支部事務所定設までの支部活動

この期間における支部の特筆すべき活動は，土木学会誌の昭和43年7月号（pp. 123～134）と8月号（pp. 66～77）に掲載された「郷土の土木」の編集活動と昭和43年10月11～15日に名古屋大学で開催した土木学会昭和43年度全国大会であった。

土木学会誌連載の「郷土の土木」は，わが国各地についての紹介であった。中部支部では，「中部

における気候・風土の特異性や，それらのもとで進められてきた郷土の土木事業が理解でき，読者諸氏の今後の仕事に役立つものであること」を目標として，その原稿を作製するために，中部支部内に編集委員会を設けた。この編集委員会は，昭和42年度に6回の委員会を開き，名古屋市の戦後復興事業，宝暦治水，佐久間ダム，伊勢湾の高潮対策など19の話題について取りまとめた。

昭和43年度土木学会全国大会の開催に際しては，昭和42年度中に6回の準備委員会を開き，43年度には9回の実行委員会ならびに幹事会を開催した。昭和43年度の全国大会から，年次学術講演会と通常総会が切り離されて行われるようになったため，名古屋での行事としては，特別講演会，年次学術講演会，PR講演会，懇親会，見学会が行われた。中部支部では，以上の各種行事のほかに，土木学会誌昭和43年9月号の「特集・全国大会開催地区紹介」として「中部地方における主要土木工事の紹介」と「中部地区教育・研究機関の紹介」を編集した。

昭和40年代初頭にこのような全国的規模の行事を無事果した中部支部は，他方で，30年間の伝統をもつ支部独自の活動，すなわち，講演会，講習会，技術講座，見学会，研究発表会の行事を地道に開催してきた。このような支部活動の充実化の中で，昭和47年度後半には，支部事務所の定置化を検討し，昭和48年度から，土質工学会中部支部との共有による事務所を，現在の名古屋市科学館地階にある中部科学技術センター内に定置することになった。

8. 支部事務所定設後の支部活動（昭和51年度まで）

昭和48年4月26日に，中部支部の事務所が定設されてからの支部活動は，昭和47年までの活動と大きな変化はないが，事務所を定置したことにより，一般会員との連絡が密になるとともに，支部における備品・書籍の保管と供用が確実に行われるようになった。

昭和50年1月には，支部行事の新しい試みとして，17～24日に名古屋市，富山県，長野県，静岡県の4会場を巡る映画会が実施された。

昭和50年度には，土木学会誌編集委員会の依頼にもとづき，「新・郷土の土木」の編集を行った。5月27日の役員会において，「木曽川」をテーマとすることを決め，9月より執筆活動に入った。執筆に協力下さった機関は，農林省東海農政局，建設省中部地方建設局，名古屋市水道局，中部電力株式会社，水資源開発公団中部支社，関西電力株式会社東海支社であり，その成果は，土木学会誌昭和51年11月号（pp. 63～69）と12月号（pp. 57～64）に「木曽三川物語」として掲載されている。この年の10月16～18日には，名古屋工業大学で全国大会が開催され，特別講演会，研究発表会，部門別講演および研究討論会，懇親会，映画会，見学会などが実施された。

運営・組織面では，昭和51年頃より，中部支部役員として永年にわたり支部運営に貢献された方々を表彰しようとする声が高まり，幹事会で検討の結果，昭和52年2月15日の幹事会において，中部支部表彰内規を定めるに至った。そして，昭和52年4月14日開催の支部総会の席において，永らく幹事として中部支部発展のために尽力された白井実次，高桑鋼一郎，長坂一彦（五十音順）の3氏を土木学会中部支部功績者として表彰した。

9. あとがき

以上，中部支部40年史の概要について述べたが，その詳細については，土木学会中部支部四十年誌（昭和53年4月発行予定；土木学会誌，昭和53年1月号，中部支部会告欄参照）に示されている。